

2020年 大学入試改革

大学入試はなぜ変わるのか

- グローバル化の進展
- 産業構造や就業構造の転換
- 生産年齢人口の急減
- 労働生産性の低迷



「求められる力」が変化

自ら課題を見出し
周囲と協力して解決する力が
求められるように

求められる力が変われば
学校教育も変わる



教育が変われば
学力の「測り方」も変わる

知識・技能だけではなく、
思考・判断・表現力を重視した入試へ

センター試験が「大学入学共通テスト」に変わる

1

国語と数学で「**記述式問題**」の導入

2

英語は**4技能、民間資格・検定試験**
を活用

1

国語と数学で「記述式問題」

- 知識だけではなく、思考力・判断力・表現力も評価
- 国語の記述式は、80～120字程度を想定
- 多様なテキストを読み取り、解釈し、複数の情報を組み合わせて新しい考えをまとめて記述する問題

2-1 英語は4技能試験

これまで

「読む」「聞く」2技能評価

これから

「読む」「聞く」「書く」「話す」4技能評価

2-2

英語は民間資格・検定試験を活用

- 高校3年生の4～12月に2回まで受検可能
- 結果とともにCEFRに基づく段階別成績を大学に提供

個別大学試験における 「多面的・総合的評価」の導入

- 一般選抜でも調査書・志望理由書・小論文・面接などが各大学の必要性に応じて課されるように
- 学校推薦型選抜、総合型選抜でも、学力評価が重視されるように

入試形態を問わず 「調査書=学校活動」が大切に

< 調査書への記載項目 >

- 学校の成績
- 課外活動
(部活・委員会・ボランティア・資格・検定等)

志望校選択時に確認を 「アドミッションポリシー」

アドミッションポリシーとは
大学が設定する「大学の入学者受け入れ方針」
どのような学生像を求めるかをまとめたもの

- 入試で問われる内容や入試方針にも反映される
- 志望する大学のアドミッションポリシーを踏まえ、高校時代に多様な経験を積むことも大切に